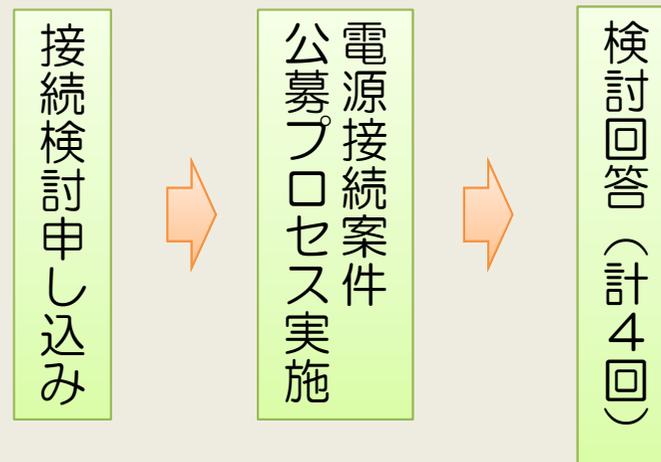


**新規地点開発等に伴う
系統接続に生じている現状**

2017年7月22日
水力発電事業懇話会

事例1) 系統対策期間に期間を要し見送り (新規地点開発)

- (1) 地点：T県K地点
- (2) 型式：流込み水路式発電所
- (3) 発電所規模：P=190kW, Q=0.13m³/s, H=190m)
- (4) 系統接続申し込み (実績)



- 系統負担金を含めても採算性に問題はなく、事前に内水面漁協ほか地元へ同意を得ていたが、系統対策期間に9年要する回答があり、発電所運開までの期間が空くため最終的に地元へ理解得られず系統申し込みを辞退。

事例2) 系統対負担金および系統対策期間に期間を要し 計画見直し (既設発電所リパワリング増出力)

(1) 計画

既設発電所のリパワリング (FIT対象計画) に併せて
増取水(+1.9m³/s)・増出力(+2,000kW)図る。



(2) 系統接続検討回答

- 系統申し込み数が少なく，系統負担金が高額 (〇〇億円)。
- 系統対策期間は19年。



既設出力範囲でのリパワリングを予定

【課 題】

- ★システム負担金が高額になると採算が取れないことがある。
- ★採算が合わず計画を中止する場合は、発注先への違約金が生じる可能性がある。
(系統接続申し込み時に発電機器のメーカー仕様が必要で、そのためには先行して発注するため)